



2006.12.14
第131号

編集
福島県教育庁
会津教育事務所

編集協力
小・中学校長会

発行
福島県市町村
教育委員会
協議会
津支支
北支支
会麻沼
北耶両

卑怯なふるまい



会津教育事務所管内三支会
連絡会長 小林良行

命をかけて訴える以外に道は無かったのだろうか。

追い詰められ道を失い、絶望の果てに自らの命を絶ったのだとすれば、同じ社会に生きる大人としてやりきれない胸の潰れる思いがします。

このところ、いじめを原因とする小中学生の自殺が度々伝えられています。

心身両面について繰り返されるいじめを一人で受け止める苦しみ、孤独感は想像に余りありません。

学校は、担任教師は何をしてきたのか。問題の兆候に気づか

かったのか。保護者、教師、校長、教育委員会、だれに責任があるのだろうか。だれが悪いのか。

今後同じ様な事が起きないよう、事件の内容を整理し原因を究明することは必要と思われ

ます。又、子供たちの中で起きていることに注意を払い、迅速・適切な指導も必要です。

事件・事故が起きると社会は論理的な説明を求めます。マスコミは使命として情報を伝え、多くの人がそれを正しいものとして受け取り、納得し、事件は解決したものとして忘れられて

いきます。これは解決なのでしょ

うか。

論理的説明によって状況を理解できても、解決にはなりません。いじめの原因が絶たれることは無いのです。

今大切なことは「いじめは極めて卑怯な行為であり、人として決してやってはいけない」ことを大人が認識し、理屈抜きで子供たちへ伝え続けることです。

会津藩校日新館の教えである「仕の掟」を基に作られた「あいつっこ一言」を改めて紹介いたします。

一、人をいたわります

二、ありがとう
ごめんなさいを言います

三、がまんをします

四、卑怯なふるまいをしません

五、会津を誇り年上を敬います

六、夢に向かってがんばります
やっつはならぬ
やらねばならぬ
ならぬことはならぬものです
規範は、理屈ぬきでここにあり

管理課 だより

平成18年度の管理訪問を終えて



訪問校（小学校55校、中学校25校）すべてにおいて、教職員による不祥事防止や学校事故の防止、学力向上に重点的に取り組んでおりました。今後、各校での取組みが実効あるものとなるよう、特に、次の事項について努力願います。

自校における学校管理上の課題把握と具体的方策

●自校の課題と対応策及び校内体制を見直すとともに、組織の活性化を図り、今後の改善・充実に努める。

教職員の不祥事防止

●校内サービス倫理委員会の内容・方法を工夫し、より一層機能するものにし、教職員一人一人の

実態に即した指導の充実を図り、教育公務員としての自覚を高める。

学校事故防止

●日常の巡視・点検等の徹底を図り、施設、火気管理、可燃物撤去等を完全に行い、瑕疵による学校事故の絶無を期する。また、個人情報等の管理については、現状を再確認し、事故防止を図る。

教職員の資質向上

●教職員目標管理制度や校内研修等を通して、教職員の資質や指導力の向上を図り、少人数教育をさらに充実させる。



心に残る人々

三島町教育委員会教育長
長谷川 一雄

夢があり希望のもてる地域づくりを目標に町職員の一つの歯車として30数年、ギシギシ音を立てて動いてきた。その間、特異な施策を展開している団体、町村等を訪ねる機会があり、そのたびごとに社会教育の重要性を考えさせられた。

その地域に伝わる産業、文化、景勝などを掘り起こし十分に生かしつつ、それぞれが勇往邁進、かつ楽しみながら懸命に事を成す。それが

地域づくりにつながっている。軽米町の日山氏、利賀村の中谷氏、足助の小澤氏や繩出氏、仁賀保の渡辺氏、湯布院の佐藤氏、などなど。農業の分野で、環境保護の分野で、文化の伝承の仕掛けの中へと、なぜをひも解き、みんなで話し合い、了解して実践している。それが先進地と称され今なお光り輝いている。

そのような折、「社会教育とは」と問われ、一口で説明できないでいたが、中学校長だった内田先生の言葉が思い出された。「数ある野草の中で、これは他とは違う美しさがある。と思う心をもつと同時に、違う美しさをもつ野草になる心を育てること」と言われた。この訓は大切に活用させていただいている。

私の出会った人はそれぞれに師であり、忘れられない皆さんである。

地域に学ぶ

「飯豊山にチャレンジ」 「アタック沢登り」

喜多方市教育委員会(旧山都町)

喜多方市の山都公民館では、中学生を対象とした「飯豊山にチャレンジ」と「アタック沢登り」の2つの事業を行っています。

以前、飯豊山は信仰の山で、15歳になった男子は一人前の男として認めもらうため山に登っていました。しかし、現在ではこうした信仰登山が姿を消したため、中学生に山に登ることの厳しさを体験させたり、自然保護に対する意識を高めたりすることを目的に、「飯豊山にチャレンジ」を続けています。飯豊山の残雪(雪形)の形は、昔、農作業の目



安として利用されていたことなど、郷土の農業文化についても学習しています。

一方、「ア

タック沢登り」は、飯豊山麓にある大滝を目指して沢の中を歩くものです。水しぶきを浴びながら歩きにくい沢の中を進む活動は、目的である大滝にたどり着いた際、大きな感動を与えています。



2つの事業とも山都にある素晴らしい自然を活用した事業であり、こうした自然体験を通し、仲間作りや友達を通して社会性を身につけ、あわせて故郷を学ぶ機会となっています。

今後はこの事業を、新市全域に広めていきたいと考えています。

私の抱負

みんなで一生懸命



会津若松市立河東第二小学校 校長 春日 芳則

朝は、子どもの英語放送から始まります。河東地区は、平成十一年度より学校教育国際化支援事業を推進し、英会話活動を通し、国際社会で生き抜く力を養っています。

休み時間には、すべての子どもたちが校庭で先生方と共に生き生きと遊んでいます。「あいづっこ宣言」が暗唱できた次々と校長室に報告に来てくれます。二小の子どもたちを見るにつけ一人一人にとって心の居場所があり楽しい学校生活を送っているなど実感します。このように学校に喜んで登校し、生き生きと活動し学び合っていて高まっていく子どもたちを、学校だけでなく、家庭、地域、関係機関が支えてくれています。本校の歴史はあとわずかですが、「みんなで一生懸命」を基本方針として、地域の宝である子どもたちが自己実現を図れるよう支援していきたいと思えます。

環境に恵まれて



会津美里町立新鶴中学校 教頭 星 信男

三月末日の辞令交付の際に頂いた温かいご指導とご助言を胸に刻み、本校に身の引き締まる思いで赴任して、早半年が過ぎました。若任早々は、目の前の仕事に精一杯取り組みただけで毎日が過ぎたように思います。今は、晴れた日には飯豊山や磐梯山、会津盆地が一望できる環境の下、子どもの教育に協力を惜しむことのない地域の中で、温かく迎えて頂いた先生方と心豊かで素直な生徒に感謝しながら仕事をしています。忙しい中でも基本的なことを決して疎かにせず、子どもたちが生き生きと学び、安全で安心して学校生活を送れるような環境づくりに努めています。

人は環境によって育つと言われます。子どもたちが本校で過ごす時間の重みをしっかりと感じて、地域や保護者の願いを真摯に受け止め、心に届く教育実践に傾注してまいります。

教師として今思うこと



西会津町立尾野本小学校 教諭 大内久美

「この荷物、教室に運んでいいですか。」本校に着任した日、先生方がごく当たり前のよう handed over 手伝ってくださいました。職員室での初めての挨拶の時、頷きながら私の話を聞いてくださいました。それらが今でも忘れられません。新しい土地、新しい職場に不安はありましたが、がんばっていいこうと思うことができました。口癖のように、「自分も同じようにしてもらったから」と言う先生方は、本当に立派だと思えます。

私は、これまで多くの先生方に助けられてきました。これからは、出会ったすべての人に自分のできる限りのことを返していきたいと思えます。そして、子どもたちや先生方、地域の方を大切に、どんな状況でも感謝の気持ちを持ち続けられる教師でありたいと思えます。

作品と指導

工作

『おいしい夢パズル』



会津若松市立荒館小学校 5年 瀬田 舞

既製の教材を使ってパズルを作りました。下絵のデザインを工夫し、丁寧に彩色させた後にニスで薄く2回塗り、安全に糸鋸で16片程にカットさせました。夢のある柔らかな色使いで楽しい作品になりました。

指導者 瓜生理恵子

絵画

色と形のハーモニー「カラカラ」 3年 横山 昂平



「抽象表現を楽しもう」をテーマに、題名のような連続する言葉から形や色を発想し砂絵での表現をしました。また、作品に合わせた額をコルクシートで制作しました。ワークシートにより構想を充実させたことで、作品に深みが出せました。

指導者 鈴木 健治

書写

『美しい海』 6年 貝沼 宗康



字配りに気を付けることをめあてに書きました。漢字が横に広がってしまう傾向があったので、横画を右上がりを書くことを意識させながら文字を整えるよう指導しました。本作品は四文字がバランスよく収まっています。

指導者 宗形 武志

指導課
だより

「学校訪問Ⅰ」を終えて

「会津の教育の重点」を指導・助言の柱として、幼稚園13園、小学校28校、中学校13校を訪問しました。学校訪問での様子や各学校の自己点検結果から、3つの最重点項目に絞ると、以下の成果(◎)や課題(●)があげられます。残された3学期、これらを十分に踏まえ、各校の教育目標の具現化を図ってほしいと思います。

3つの最重点に関するアンケート調査結果(2学期中間)

| 重点 | 評価項目 | 小学校(%) | | | | 中学校(%) | | | |
|---------------|--------------------|--------|----|----|---|--------|----|----|---|
| | | A | B | C | D | A | B | C | D |
| 確かな学力の向上 | グランドデザインの見直し | 36 | 58 | 6 | 0 | 39 | 55 | 5 | 0 |
| | 3つの視点に沿った授業 | 22 | 75 | 4 | 0 | 26 | 66 | 8 | 0 |
| 豊かな人間性・社会性の育成 | 重点化を図った規範意識を高める指導 | 27 | 65 | 8 | 0 | 47 | 47 | 5 | 0 |
| | 心に響き心が動く道徳の授業の実践 | 8 | 75 | 17 | 0 | 16 | 66 | 18 | 0 |
| 健康の保持増進と体力の向上 | 新体力テストの分析と体育の時間の工夫 | 22 | 67 | 11 | 0 | 53 | 47 | 0 | 0 |
| | 「性、食に関する指導」の計画的な実施 | 36 | 53 | 11 | 0 | 29 | 50 | 18 | 3 |

(A:達成している B:ほぼ達成している C:取り組んでいるが不十分である D:まだ取り組んでいない)

1 「確かな学力」の向上

- ◎計画に基づき実践し、短期での評価(見直し)を行い、改善を加えながら実践されている。また、3つの視点に沿った授業づくりが定着している。
- 「個に応じた指導」のより一層の充実
- 単元テスト結果に基づく補充的な指導

- 課題意識を高め、追究すべき点が明確となるための吟味・検討

2 豊かな人間性・社会性の育成

- ◎規範意識を高めるために、一事徹底の取組みや児童生徒の自己肯定感を感じさせる取組みなど、具体的な取組みが多く見られた。道徳の授業公開にも積極的に取組み、連携推進に効果を上げている。
- 各教科や他領域との関連が明確な道徳の「学級における指導計画」の作成
- 「誰が」「どの場面で」「何について」等を明確にした指導と、その成果・課題の把握

3 健康の保持増進と体力の向上

- ◎新体力テストの結果を分析し、体力づくり推進計画の見直しを図るなど、自校の課題解決を目指した組織的な取組みが見られた。
- ◎養護教諭や学校栄養職員とのT・Tによる授業が見られるようになってきた。
- 「運動身体づくりプログラム」の学校全体での取組み(小学校)
- 「性・食に関する指導」の計画的な実践と年間指導計画への位置付け

生涯学習課
だより

積極的な学社連携・融合の推進

公民館訪問では、各公民館の現状と課題の解決に向け、これからの公民館のあり方や役割など、よりよい運営に向けた協議をした。特に、県の重点課題である青少年教育や家庭教育、地域教育力の向上については、県が進めている「地域教育力支援推進事業」や学社連携・融合の重要性について再確認することができた。ここで、喜多方市松山公民館の学習ボランティアの取り組みについて紹介する。

◇学習支援ボランティア学級の設置

地域の教育力を向上させるためには、幼稚園や小学校と地域の連携が不可欠と考え、その接点を模索してきた。数年前、学校と話し合い、公民館に「学習支援ボランティア学級」を設置し、総合的な学習の時間を中心に学社連携・融合を推進している。

○農業体験学習をサポート

播種から収穫し食べるまでの各学年の作物栽



培学習をサポートしている(そば打ち、豆腐作りなど)。ケナフで漉いた卒業証書も作成している。

○クラブ活動へ講師派遣

囲碁・将棋、詩吟、茶道、大正琴、ダンス、ゲートボールなどのクラブ活動で子どもたちを指導している。

○松山安心安全運動の推進

犯罪から子どもたちを守るために、積極的にあいさつを交わしたり、子どもたちの行動に目を配ったりするなど、地域総ぐるみで「松山安心安全運動」を実施している。

地域社会は人材の宝庫であり、潜在的な教育力を秘めている。様々な問題を解決するために、地域の力と学校教育が連携・融合



できる可能性を探り、それを実践する拠点としての公民館の役割が益々増している。

(資料提供 松山公民館 唐橋一郎)